

スポーツⅡ—F スポーツマーケティング

チームメンバー…

21211251 中山涼、

21211205 瀧田湧仁

夏の体育館で快適に運動するために 概要

学校で使用される冷房設備としては、天吊りエアコン（個別方式）、中央式ファンコイル方式（冷水循環方式）等があります。

今のところ冷房設備が設けられている学校は少ない状況にありますが、騒音や大気汚染が問題となる地区では、窓を開放して通風を確保することが困難であることから冷房設備を設けている場合があります。

参考文献

<http://sport.edu.ibaraki.ac.jp/semi/2006/resume/26niwata.pdf#search='%E4%BD%93%E8%82%B2%E9%A4%A8+%E6%B8%A9%E5%BA%A6'>

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/04062201.pdf

夏季の体育館は非常に高温多湿な環境になります。このため夏季にスポーツをする際、また夏季に災害が発生し避難者を体育館に収容した場合、熱中症等による健康被害を招く可能性があります。

夏季の体育館内の気温は35℃を超える時もあります。

夏季の日中の体育館内温度は午前9時頃から午後の14時までがピークに達します。

解決方法

床下冷房を付ける。

空港・大規模工場・高速道路等がある騒音が高い地域では二重窓への改築、エアコン等の設置には当該施設や地方自治体から補助金が出ます。

一般地域の体育館にはこのような特別な状況が少ないので付けることは難しいです。

到達目標 快適な環境でスポーツをする。

子どもの健康と成育のためには快適スポーツをする環境を提供する必要があります。

また高齢化による地域住民のレクリエーションの場としても活用が期待されます。

さらに体育館は大規模災害発生時には第一次広域避難場所になるので国・地方自治体の災害対策費の予算で整備をします。

体育館を市民、企業にも開放し、有料化することにより維持費をまかないます。

*1 参考文献 http://omsolar.jp/shisetsu_guide.pdf

<http://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid/922/Default.aspx>